

第4回 分倍河原駅周辺地区 地区計画等検討会 北西側住宅区域 議事要旨

1 日 時 令和2年10月29日（木）午後7時～8時45分

2 場 所 片町文化センター3階講堂

3 出席者 都市整備部地区整備課 職員6名

参加住民 7名

分倍河原駅周辺まちづくり協議会会員 8名

(株)首都圏総合計画研究所（コンサルタント） 3名

4 資 料 【次第】

【資料1】まちづくり基本計画（案）に関する主なご意見と市の考え方

【資料2】第4回分倍河原駅周辺地区地区計画等検討会（北西側住宅区域）

【資料3】誘導計画の内容（案）（北西側住宅区域）

【参考資料】本宿町地区まちづくり誘導計画

分倍河原駅周辺地区まちづくり基本計画

5 内 容

(1) まちづくり基本計画の策定報告

- ・資料1に基づき、コンサルタントより、まちづくり基本計画に関する主なご意見と市の考え方について説明があった。

(2) まちづくり誘導計画について

- ・資料2に基づき、コンサルタントより、まちづくり誘導計画について説明があった。

(3) グループでの意見交換

(・意見、→市・コンサルタントからの回答・説明)

<Aグループ>

(1) 東西自由通路について

- ・通路をどの空間に設けるのか、地下か地上かで整備に関する考え方が異なる。地下は費用がかかるから必ずしも無理であるとはいえないと思う。京王線西側の低層住宅地の住民にとって2～3階レベルの高さの通路ができると日影などの影響が及ぶので、合意形成が必要である。（参加者）
- ・東西自由通路を整備するための空間を確保するため、買収が必要。（参加者）
- ・周辺にお住まいの方々は、東西自由通路がどのくらいの幅や高さとなるか、どのくらいの空間確保が必要となるのかについて心配しており、そのような話を聞きたいのではないか。（参加者）
→東西自由通路の整備については空間の確保が必要であり、関係者との話し合いは別途進めている。（市）
- ・自転車を押し歩きできる幅も必要である。（参加者）

→自転車は想定していないが、都市・地域交通戦略では、東西自由通路の幅は4.5m～6mが必要であるという結果が示されている。(市)

- ・東西自由通路を整備すること自体に反対する人はいない。東西自由通路について具体的に示してもらわないと、意見の出しようがない。(参加者)
- ・同じような話し合いをずっと続けており、本日は具体的なプランが示されていると楽しみに来たのに残念だ。(参加者)

(2) 道路・歩行環境について

- ・駅へのアクセス路にあたる場所に住んでいる人への対応が必要である。(参加者)
- ・駅周辺の整備と関連づけて説明をしてもらわないと、必要性が理解しにくい。(参加者)

→駅へのアクセス路や東西自由通路が整備されることによって、北西住宅区域内にも人や自動車の通行が増加することが考えられる。そこで、現在幅員が狭い、通称Y字道路を拡げることなどが必要となってくるのではないかと。(コンサルタント)

(3) 居住環境について

- ・地区外に住んでおり、地区内に空家を所有している。空家のある場所は、静かで環境もいいのだが、この環境を維持するために何をしていけば良いかわからない。(参加者)
- ・居住環境と駅舎改良とのつながりをはっきりさせないと、独自のルールの内容になっていかないのではないかと。(参加者)
- ・駅周辺の空間整備と地区内に点在する空家を関連づけることはできないかと。(参加者)
- ・駅周辺の基盤整備と関連づけてルールづくりや狭あい道路の整備を考えていかなければならない。(参加者)
- ・駅舎や東西自由通路がどのようになるのか示してもらわないと、住環境についても意見が出しにくい。(参加者)

(4) その他の意見

- ・誘導計画とは地区計画につながるものだが、強制力はないという説明だった。策定する意味がよくわからない。(参加者)
- ・誘導の基本となる考え方を共有していかないといけない。(参加者)
→「住む」ということに着目して、何が必要か、どのようなまちにしていくのか、を考えていただきたい。(市)
- ・将来的には京王線が高架になると良いと思っている。(参加者)

< Bグループ >

(1) 東西自由通路について

- ・東西自由通路の計画は、具体的に決まってきたのか。(参加者)

→具体的な場所については、まちづくり基本計画図に示しているあたりだが、具体的な計画は協議中である。（市）

- ・東西自由通路ができると現在の踏切をなくすということになるのか。

→現在はその想定でいる。（市）

- ・西府駅の状況を見ても、東西自由通路ができ踏切が閉鎖されると、京王線を自転車で横断するのが大変になるので、今の流れを変えないように、踏切を残せないかと考えている。（参加者）

（2）道路・歩行環境について

- ・東西自由通路のあたりまで幅員6m程度の道路を整備しても行き止まりのようになってしまい、緊急車両が入ってきてもUターンするところがない。現在でも駅への送迎車や介護車両が入ってきて困ることがあるので、緊急車両等が廻って戻っていきける道路を整備しないと混乱するのではないか。地区内に駐車場が増えて、駐車場に自動車を止めて商店街に行く人もいる。また、敷地が細分化して住宅も増えてきており、自動車が入ってくることも多くなっている。静かな住宅地は望ましいが、駅に近いこともあり、道路の整備を考える必要があるのではないか。（参加者）

→駅へのアクセス路は、なるべく歩行者が中心となった道路にして、自動車を住宅地内に呼び込むことがないようにしたいと考えているが、防災上は緊急車両が入ってこられるようにすることも重要なので、難しいところである。（コンサルタント）

- ・南武線の1号橋（人道橋）を改善して、もう少し安全に人や自転車が行き来できるようにすれば、駅前のこ線橋を使わないでもサミット等に行くことができるようになるのではないか。1号橋は急で狭いので、車椅子では通行できない。（参加者）
- ・1号橋は勾配が急で穴が開いていたこともあり、非常に危ない。散歩道なので、自動車や大型バイクが通行するのは反対だが、きちんとした橋に架け替えられないか。以前は農道で、その頃は富士山も見えた。（参加者）
- ・まちづくり協議会では、分梅通りの街路樹があるので、例えば、自転車とベビーカーが交差する時に邪魔になるのではないかという意見があった。緑が多い方がいいけれど、そうした現状をどうするか。結論としては、街路樹を大事にするけれども、そうした問題があるところは、部分的に間引いても良いのではないかという話になった。（参加者）

（3）居住環境について

- ・分倍河原は歴史もあり好きなまち。以前は駅から分梅通りを通ると梅の香りがして分梅町の意味が分かった。梅の香りのする分梅町はすてきだ。JRでは川崎方面にも行くことができ、京王線の特急も止まる。非常に便利なまちなので、環境が良ければ、あちらこちらから、住みたいという人が増える。（参加者）
- ・分梅通りにも花の香りのする樹木を植えてほしい。（参加者）
- ・道路を整備する時は、自由が丘のように緑をたくさん植えてほしい。（参加者）

- ・昔は駐車場がなくて困っていたが、今は駐車場が増えてきた。（参加者）
- ・駐車場が増えるとどうしても自動車が入ってくる。府中駅周辺でも駅前に駐車場を集約したが、渋滞してしまい大きな間違い。（参加者）
- ・商店街に駐車場ができると自動車が入ってきてしまうので、商店街としては良くないが、相続で代替わりをした際に後継ぎがいないと売却されて、駐車場になったり、土地が小さくなり店舗も小さくなってしまう。商店街もかつては生鮮製品の店もあったが、どんどんなくなってしまった。今後の商店街のことを考えると、物販店がある程度ないと、道だけをきれいにしてもお客さんが来なくなってしまう。ミナノだけでなく、商店街に如何にお客を引き寄せるかを考える必要がある。商店街は地域住民に身近な商売をやっているのだから、商店街と地域住民の両方の立場に立って考えていく必要があると思う。（参加者）
- ・代替わりをすると売却されて土地が細切れになっていく。益々店舗が小さくなって商店街がしなびていくことを危惧している。（参加者）
- ・色彩等はバラバラよりもヨーロッパのように統一したほうが良いのは当たり前。（参加者）
- ・それは大変な制約になって、日本では個々に勝手に土地を使いたいという人が多いので難しいのではないかと。（参加者）
- ・市民は植栽をいっぱい植えろというが、現実的には剪定にすごいお金をかけている。スペースのないところに樹木をいっぱい植えて、剪定に税金を投入するだけになるので、そのあたりもしっかりと考えていく必要がある。市民も税金を払っているから市にやってくれということではなく、自分たちもできることをやっていかないといけない。そうしたことをルールにして、市民自らがやっていかなければならない時代になっている。（参加者）
- ・家の表には決められた色以外の花しか植えていけない、好きな花は裏庭に、といったことが決められている国があるという話を聞いたことがある。（参加者）
- ・そうしたことを皆さんで話し合っ、どこまでルールにできるかということかと思う。市民は大きな樹木を大切にというが、農家はそれを維持するのに大変な状況になっている。そうしたことも考えていく必要がある。（参加者）
- ・住宅地内も既に宅地の細分化が進んできており、あまり細分化しないようなまちづくりのルールは必要と考えている。（参加者）
- ・相続が発生したときに、相続人が何人もいると、跡取りがいたとしても分割せざるを得ないことがある。そうしたこともあり、宅地が今以上に分割されないようにしていくことが重要と思うので、最低敷地面積を決めていくということは良い話だと思う。（参加者）

（４）その他の意見

- ・少し別のところに住んでいたが 10 年前からまた住み始めた。南武線のご線橋が昔から変わってなくて古いので、危ないと感じる。（参加者）
→ご線橋は、現在、バリアフリーの基準を満たしていないこともあり、市も、架け替

え等を検討している。(市)

- ・いつから何が始まるのか。道路の整備なのか駅舎の整備が先なのか。(参加者)
→今年、まちづくり基本計画をつくり、17の施策をあげているが、これらを段階的に進めていくことになる。近々始めようとしている施策や長期的に取り組んでいく施策があり、まず、分梅通りにおける車のスピード抑制のための路面表示の改良といったことから手を付けていく考えである。駅舎改良については鉄道事業者との協議を進めている状況である。(市)
- ・みんなが早く意見をまとめていけば、早く始まるのか。(参加者)
→まちづくり誘導計画については、皆さん方が検討会にご参加いただきご意見いただければ、誘導計画の案に織り込んでいくことができるような会だと考えている。
- ・立川駅のように、駅舎の中に買い物のできるコーナーなどができるとうれしい。(参加者)
- ・旧甲州街道のところは高架になるのか。(参加者)
→現在の計画では、旧甲州街道と京王線の立体交差の計画はない。(コンサルタント)
- ・まちづくり協議会の活動が再開して提案書を出し、我々の考え方がこれからどのように形になっていくのか、みんなそこが気になっている。(参加者)
- ・最初のまちづくり協議会では、鉄道の立体化等の夢を語っていたが、今回は、鉄道は現在のままで、実際に現在困っていることをまず解決していこうと市が進めているのだと考えている。まちづくり基本計画やまちづくり誘導計画と、これまで協議会がやってきたことが、うまく合意形成できればと考えている。(参加者)
- ・まちづくり協議会でも一定のまとまりをもって提言書を出して、これを具体的にどうしていくのかというところに差し掛かってきて、まちづくり誘導計画という話が出てきたと認識している。(参加者)
- ・地区計画は府中市全体で決めていく必要があるのか。(参加者)
- ・この分倍河原駅周辺の西側地区だけのルールということだ。(参加者)

以上